

新規陽性者の発生動向

(1) 大阪府の発生動向

- **7日間新規陽性者数が直近2週間で増加し、7月6日時点で1日あたり110名を超過。**
デルタ株の置き変わりがすすんでいる東京都では、2週連続で前週比1.2倍で増加しており、**大阪府でも、今後、デルタ株の置き変わりによる感染拡大が懸念。**
(第四波では、感染拡大の兆候を探知して以降、約3週間で新規陽性者数が1000人を超過し、3週間その状態が継続。)
- 緊急事態宣言解除後、人流が急拡大。**人流が拡大すると、新規陽性者数が遅れて増加する傾向にあり、今後、夏休みなど感染機会の増加も背景に、感染が拡大する可能性が高い。**
- **感染拡大を早期探知するための「見張り番指標」となる20・30代新規陽性者数が増加傾向にあることから、指標の状況を十分に注視することが必要。**

(2) 市内・市外居住者の発生動向（週・人口10万人あたり）

- 直近1週間の人口10万人あたりの新規陽性者数は、**市内居住者が再び増加に転じ、ステージⅢ（15人）の基準に到達しつつある。**
特に20代市内居住者はステージⅣ（25人）を超過、30代もステージⅢ（15人）を超過。

(3) 夜の街関連やクラスターの発生動向

- **新規陽性者に占める夜の街の関係者及び滞在者数は直近5日間で増加し、5日間の人数が前週2週間と同程度。**
滞在分類として、居酒屋・飲食店に滞在した陽性者が多く、滞在エリアとしては市内が増加。
- クラスターとしては、7月に入り、大学・学校関連、医療機関関連の割合（施設数ベース・陽性者数ベース）が増加。

医療提供体制の状況

- **重症者数は7月3日以降増加に転じ、軽症中等症病床使用率も同日より増加。**

感染状況と医療提供体制の状況について

今後の対応方針について

- 直近2週間で**新規陽性者数が増加**に転じ、今後、**人流の急拡大**と7月から8月にかけての**感染機会の増加**を背景にさらなる**感染拡大が生じる可能性**がある。
さらに、従来株に比べ、感染性や重篤度が高く、ワクチンと抗体医薬の効果を弱める可能性があるとする**デルタ株への置き変わりがすすめば、第四波を上回る規模での感染急拡大等の影響も懸念**される。
 - 今後、ワクチン接種の進捗により、新規陽性者や重症患者などの減少が期待される一方、**ワクチン未接種層における感染拡大や変異株の影響**などにより、ワクチン接種が進んでも**一定の重症患者の発生や軽症中等症患者の増加など、感染拡大のリスクが存在**する。
特に7月末までは、重症化リスクの高い高齢者のワクチン接種（接種希望者）が完了していないことから、**集中警戒期間として、感染急拡大の防止と医療提供体制の負担を最大限に軽減していくことが必要**。
- ⇒**ワクチン接種を希望する高齢者の接種が完了する7月末（見込み）までは、できる限り感染拡大を抑制し、医療提供体制のひっ迫を防ぐ取組みが必要**。
なお、高齢者に加えて各年代でワクチン接種が十分進むまでは、上記のとおり感染拡大のリスクは依然、存在することから、8月以降も感染状況や医療提供体制の状況を踏まえ、機動的に感染防止対策を実施していくことが必要である。
- ⇒**特に、第四波では、感染拡大の兆候探知から約3週間で新規陽性者数が1000名を超過し、その状態が3週間継続したことや、感染力の高いとされる変異株（デルタ株）の影響を踏まえ、感染拡大の兆候が見られた際には、早期に強い措置をとることで、感染拡大抑制を図ることが必要**。